

G1.Sniper B5

ユーザーズマニュアル

改版 1201

12MJ-G1SNPB5-1201R



Declaration of Conformity

We, Manufacturer/Importer,

G.B.T. Technology Trading GmbH

Address: Bullenkoppel 16, 22047 Hamburg, Germany

Declare that the product

Product Type: Motherboard

Product Name: G1.Sniper B5

conforms with the essential requirements of the following directives:

☒ 2004/108/EC EMC Directive:

- | | |
|--|---------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> Conduction & Radiated Emissions: | EN 55022:2010 |
| <input checked="" type="checkbox"/> Immunity: | EN 55024:2010 |
| <input checked="" type="checkbox"/> Power-line harmonics: | EN 61000-3-2:2006+A2:2009 |
| <input checked="" type="checkbox"/> Power-line flicker: | EN 61000-3-3:2008 |

☒ 2006/95/EC LVD Directive

- | | |
|---|-------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> Safety: | EN60950-1:2006+A12:2011 |
|---|-------------------------|

☒ 2011/65/EU RoHS Directive

- | | |
|---|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> Restriction of use of certain substances in electronic equipment: | This product does not contain any of the restricted substances listed in Annex II, in concentrations and applications banned by the directive. |
|---|--|

☒ CE marking

CE

Signature: Timmy Huang

(stamp)

Date: May 30, 2013

Name: Timmy Huang

DECLARATION OF CONFORMITY

Per FCC Part 2 Section 2.1077(a)



Responsible Party Name: G.B.T. INC. (U.S.A.)

Address: 17358 Railroad Street

City of Industry, CA 91748

Phone/Fax No: (626) 854-9338/ (626) 854-9326

hereby declares that the product

Product Name: Motherboard

Model Number: G1.Sniper B5

Conforms to the following specifications:

FCC Part 15, Subpart B, Section 15.107(a) and Section 15.109 (a), Class B Digital Device

Supplementary Information:

This device complies with part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) This device may not cause harmful and (2) this device must accept any interference received, including that may cause undesired operation.

Representative Person's Name: ERIC LU

Signature: Eric Lu

Date: May 30, 2013

著作権

© 2014 GIGA-BYTE TECHNOLOGY CO., LTD. 版權所有。

本マニュアルに記載された商標は、それぞれの所有者に対して法的に登録されたものです。

免責条項

このマニュアルの情報は著作権法で保護されており、GIGABYTE に帰属します。

このマニュアルの仕様と内容は、GIGABYTE により事前の通知なしに変更されることがあります。

本マニュアルのいかなる部分も、GIGABYTE の書面による事前の承諾を受けることなしには、いかなる手段によっても複製、コピー、翻訳、送信または出版することは禁じられています。

■ 本製品を最大限に活用できるように、ユーザーズマニュアルをよくお読みください。

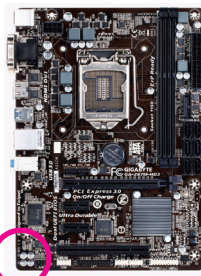
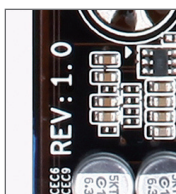
■ 製品関連の情報は、以下の Web サイトを確認してください：

<http://www.gigabyte.jp>

マザーボードリビジョンの確認

マザーボードのリビジョン番号は「REV: XX.」のように表示されます。例えば、「REV: 1.0」はマザーボードのリビジョンが 1.0 であることを意味します。マザーボード BIOS、ドライバを更新する前に、または技術情報をお探しの際は、マザーボードのリビジョンをチェックしてください。

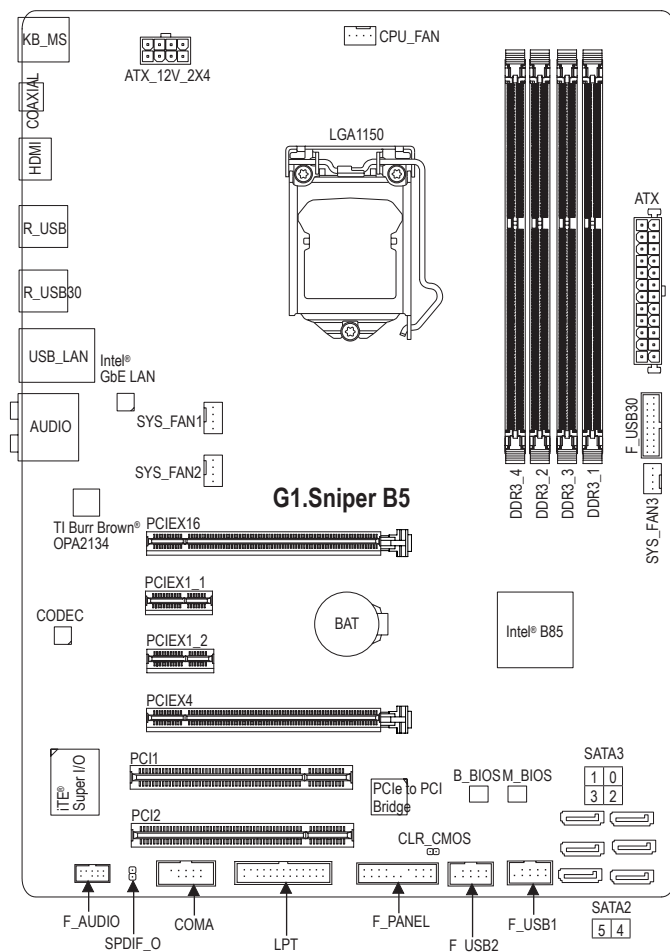
例：



目次

G1.Sniper B5 マザーボードのレイアウト	4
G1.Sniper B5マザーボードブロック図	5
第 1 章 ハードウェアの取り付け	6
1-1 取り付け手順	6
1-2 製品の仕様	7
1-3 CPU を取り付ける	9
1-4 メモリの取り付け	10
1-5 拡張カードを取り付ける	10
1-6 背面パネルのコネクター	10
1-7 作動状態の増幅器の変更	12
1-8 内部コネクター	13
第 2 章 BIOS セットアップ	19
2-1 起動画面	19
2-2 M.I.T.	20
2-3 System (システム)	25
2-4 BIOS Features (BIOS の機能)	26
2-5 Peripherals (周辺機器)	29
2-6 Power Management (電力管理)	32
2-7 Save & Exit (保存して終了)	33
第 3 章 付録	34
ドライバのインストール	34
規制声明	35
連絡先	36

G1.Sniper B5 マザーボードのレイアウト

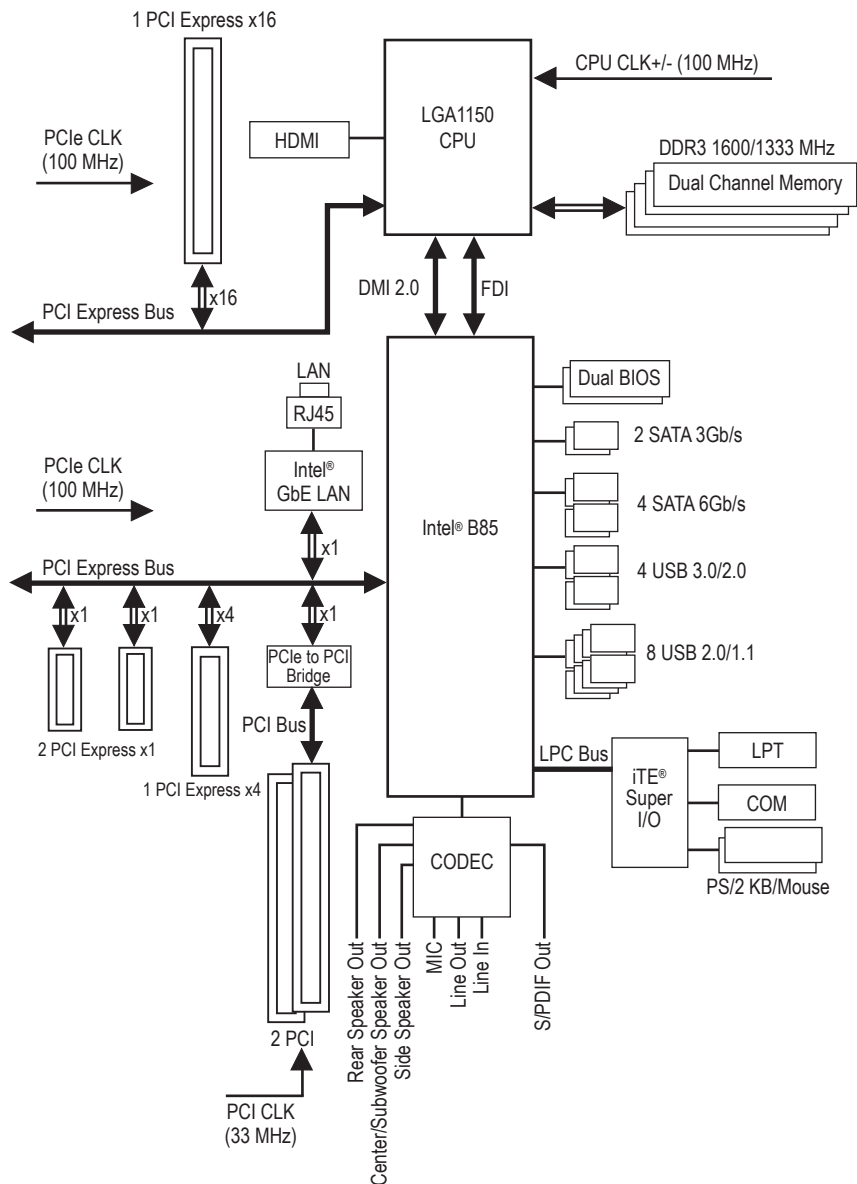


ボックスの内容

- ☒ G1.Sniper B5マザーボード
- ☒ マザーボードドライバディスク
- ☒ ユーザーズマニュアル
- ☒ クイックインストールガイド
- ☒ SATA ケーブル (x2)
- ☒ I/O シールド

上記、ボックスの内容は参照用となります。実際の同梱物はお求めいただいた製品パッケージにより異なる場合があります。また、ボックスの内容については、予告なしに変更する場合があります。

G1.Sniper B5マザーボードブロック図



製品の情報/制限の詳細は、"1-2 製品の仕様"を参照してください。











第1章 ハードウェアの取り付け

1-1 取り付け手順




マザーボードには、静電放電 (ESD) の結果、損傷する可能性のある精巧な電子回路やコンポーネントが数多く含まれています。取り付ける前に、ユーザーズマニュアルをよくお読みになり、以下の手順に従ってください。

- 取り付け前に、PCケースがマザーボードに適していることを確認してください。
- 取り付ける前に、マザーボードの S/N (シリアル番号) ステッカーまたはディーラーが提供する保証ステッカーを取り外したり、はがしたりしないでください。これらのステッカーは保証の確認に必要です。
- マザーボードまたはその他のハードウェアコンポーネントを取り付けたり取り外したりする前に、常にコンセントからコードを抜いて電源を切ってください。
- ハードウェアコンポーネントをマザーボードの内部コネクタに接続しているとき、しっかりと安全に接続されていることを確認してください。
- マザーボードを扱う際には、金属リード線やコネクタには触れないでください。
- マザーボード、CPU またはメモリなどの電子コンポーネントを扱うとき、静電放電 (ESD) リストストラップを着用することをお勧めします。ESD リストストラップをお持ちでない場合、手を乾いた状態に保ち、まず金属に触れて静電気を取り除いてください。
- マザーボードを取り付ける前に、ハードウェアコンポーネントを静電防止パッドの上に置か、静電遮断コンテナの中に入れてください。
- マザーボードから電源装置のケーブルを抜く前に、電源装置がオフになっていることを確認してください。
- パワーをオンにする前に、電源装置の電圧が地域の電源基準に従っていることを確認してください。
- 製品を使用する前に、ハードウェアコンポーネントのすべてのケーブルと電源コネクタが接続されていることを確認してください。
- マザーボードの損傷を防ぐために、ネジがマザーボードの回路やそのコンポーネントに触れないようにしてください。
- マザーボードの上またはコンピュータのケース内部に、ネジや金属コンポーネントが残っていないことを確認してください。
- コンピュータシステムは、平らでない面の上に置かないでください。
- コンピュータシステムを高温環境で設置しないでください。
- 取り付け中にコンピュータのパワーをオンにすると、システムコンポーネントが損傷するだけでなく、ケガにつながる恐れがあります。
- 取り付けの手順について不明確な場合や、製品の使用に関して疑問がある場合は、正規のコンピュータ技術者にお問い合わせください。

1-2 製品の仕様

 CPU	<ul style="list-style-type: none"> • LGA1150 Intel® Core™ i7プロセッサ/Intel® Core™ i5プロセッサ/Intel® Core™ i3プロセッサ/Intel® Pentium®プロセッサ/Intel® Celeron®プロセッサのサポート (最新の CPU サポートリストについては、GIGABYTE の Web サイトにアクセスしてください。) • L3 キャッシュは CPUにより異なります
 チップセット	<ul style="list-style-type: none"> • Intel® B85 Express チップセット
 メモリ	<ul style="list-style-type: none"> • 最大 32 GB のシステムメモリをサポートする DDR3 DIMM ソケット (x4) <ul style="list-style-type: none"> * Windows 32ビットオペレーティングシステムの制限のため、4 GB以上の物理メモリを取り付けた場合、表示される実際のメモリサイズは取り付けられた物理メモリのサイズより小さくなります。 • デュアルチャンネルメモリ対応 • DDR3 1600/1333 MHz メモリモジュールのサポート • 非 ECC メモリモジュールのサポート • XMP (エクストリームメモリプロファイル) メモリモジュールのサポート (サポートされる最新のメモリ速度とメモリモジュールについては、GIGABYTEのWebサイトを参照ください。)
 オンボードグラフィックス	<ul style="list-style-type: none"> • 統合グラフィックスプロセッサ： <ul style="list-style-type: none"> - HDMIポート(x1)、4096x2160の最大解像度をサポートします。 * HDMIバージョン1.4aをサポート。 - 最大1 GBまでのメモリをシェア可能
 オーディオ	<ul style="list-style-type: none"> • Realtek® ALC898 コーデック • TI Burr Brown® OPA2134 オペアンプ • ハイディフィニションオーディオ • 2/4/5.1/7.1 チャンネル • S/PDIFアウトのサポート
 LAN	<ul style="list-style-type: none"> • Intel® GbE LAN チップ (10/100/1000 Mbit)
 拡張スロット	<ul style="list-style-type: none"> • PCI Express x16 スロット (x1)、x16 で動作 (PCI Express x16スロットはPCI Express 3.0規格に準拠しています) <ul style="list-style-type: none"> * 最適のパフォーマンスを出すために、PCI Expressグラフィックスカードを1つしか取り付けない場合、PCIEX16スロットに必ず取り付けてください。 • PCI Express x16 スロット (x1)、x4で動作 (PCIEX4) • PCI Express x1 スロット (x2) (PCIEX4とPCIEX1 スロットは PCI Express 2.0 規格に準拠しています。) • PCI スロット (x2)
 マルチグラフィックステクノロジー	<ul style="list-style-type: none"> • AMD CrossFire™テクノロジーのサポート
 ストレージインターフェイス	<ul style="list-style-type: none"> • チップセット： <ul style="list-style-type: none"> - SATA 6Gb/s コネクター (x4) (SATA3 0~3) - SATA 3Gb/s コネクター (x2) (SATA2 4/5)
 USB	<ul style="list-style-type: none"> • チップセット： <ul style="list-style-type: none"> - USB 3.0/2.0ポート (x4) (背面パネルに2つのポート、内部USBヘッダーを通して2ポートが使用可能) - USB 2.0/1.1ポート (x8) (背面パネルに4つのポート、内部USBヘッダーを通して4ポートが使用可能)

	内部コネクタ	<ul style="list-style-type: none"> 24 ピン ATX メイン電源コネクタ (x1) 8 ピン ATX 12V 電源コネクタ (x1) SATA 6Gb/s コネクタ (x4) SATA 3Gb/s コネクタ (x2) CPU ファンヘッダ (x1) システムファンヘッダ (x3) 前面パネルヘッダ (x1) 前面パネルオーディオヘッダ (x1) S/PDIF アウトヘッダ (x1) USB 3.0/2.0 ヘッダ (x1) USB 2.0/1.1 ヘッダ (x2) シリアルポートヘッダ (x1) パラレルポートヘッダ (x1) CMOSクリアジャンパ (x1)
	背面パネルのコネクタ	<ul style="list-style-type: none"> PS/2 キーボードポート (x1) PS/2 マウスポート (x1) 同軸 S/PDIF アウトコネクタ (x1) HDMIポート (x1) USB 3.0/2.0ポート (x2) USB 2.0/1.1ポート (x4) RJ-45ポート (x1) 光学 S/PDIF アウトコネクタ (x1) オーディオジャック (x5) (センター/サブウーファースピーカーアウト、リアスピーカーアウト、ラインイン、ラインアウト、マイクイン)
	I/O コントローラー	<ul style="list-style-type: none"> iTE® I/O コントローラーチップ
	ハードウェアモニター	<ul style="list-style-type: none"> システム電圧の検出 CPU/システム温度検出 CPU/システムファン速度検出 CPU/システム過熱警告 CPU/システムファンの異常警告 CPU/システムファン速度制御 <p>* ファン速度コントロール機能のサポートについては、取り付けたクーラーによって異なります。</p>
	BIOS	<ul style="list-style-type: none"> 128 Mbit フラッシュ (x2) 正規ライセンス版AMI UEFI BIOSを搭載 DualBIOS™ のサポート PnP 1.0a, DMI 2.7, SM BIOS 2.7, ACPI 2.0
	独自機能	<ul style="list-style-type: none"> Q-Flash のサポート Xpress Install のサポート APP Center のサポート <p>* App Center で使用可能なアプリケーションは、マザーボードのモデルによって異なります。各アプリケーションのサポート機能もマザーボードのモデルによって異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> @BIOS EasyTune EZ Setup USB Blocker ON/OFF Charge のサポート

 バンドルされたソフトウェア	<ul style="list-style-type: none"> ◆ Norton® インターネットセキュリティ (OEM バージョン) ◆ Intel® Rapid Start Technology ◆ Intel® Smart Connect Technology ◆ Intel® Small Business Advantage ◆ cFosSpeed
 オペレーティングシステム	◆ Windows 8.1/8/7 のサポート
 フォームファクタ	◆ ATXフォームファクタ、30.5cm x 22.5cm

- * GIGABYTEは、予告なしに製品仕様と製品関連の情報を変更する場合があります。
- * GIGABYTEのWebサイトにある**Support & Downloads/Utility**ページにアクセスし、「独自機能」と「バンドルされたソフトウェア」の欄にリストされたソフトウェアがサポートするオペレーティングシステムをご確認ください。

1-3 CPU を取り付ける

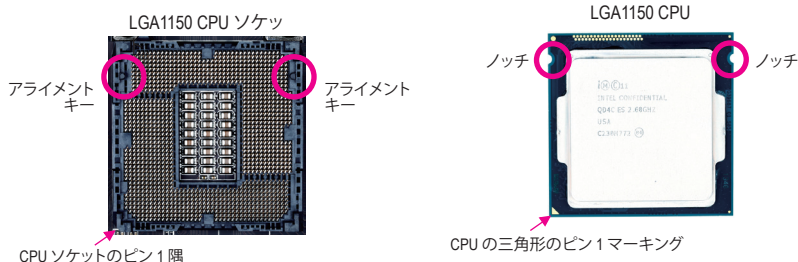


CPU を取り付ける前に次のガイドラインをお読みください：

- ◆ マザーボードが CPU をサポートしていることを確認してください。
(最新の CPU サポートリストについては、GIGABYTE の Web サイトにアクセスしてください。)
- ◆ ハードウェアが損傷する原因となるため、CPU を取り付ける前に必ずコンピュータの電源をオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。
- ◆ CPU のピン 1 を探します。CPU は間違った方向には差し込むことができません。(または、CPU の両側のノッチと CPU ソケットのアライメントキーを確認します。)
- ◆ CPU の表面に熱伝導グリスを均等に薄く塗ります。
- ◆ CPU クーラーを取り付けずに、コンピュータの電源をオンにしないでください。CPU が損傷する原因となります。
- ◆ CPU の仕様に従って、CPU のホスト周波数を設定してください。ハードウェアの仕様を超えたシステムバスの周波数設定は周辺機器の標準要件を満たしていないため、お勧めできません。標準仕様を超えて周波数を設定したい場合は、CPU、グラフィックスカード、メモリ、ハードドライブなどのハードウェア仕様に従ってください。

CPU を取り付ける

マザーボード CPU ソケットのアライメントキーおよび CPU のノッチを確認します。



CPU を取り付ける前にCPUソケットカバーを取り外さないで下さい。先にCPUをCPUソケットに取り付けた後に、ロードプレートを元に戻すと自動的にCPUソケットカバーは外れます。

1-4 メモリの取り付け



メモリを取り付ける前に次のガイドラインをお読みください：

- マザーボードがメモリをサポートしていることを確認してください。同じ容量、ブランド、速度、およびチップのメモリをご使用になることをお勧めします。(サポートされる最新のメモリ速度とメモリモジュールについては、GIGABYTEのWebサイトを参照ください。)
- ハードウェアが損傷する原因となるため、メモリを取り付ける前に必ずコンピュータのパワーをオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。
- メモリモジュールは取り付け位置を間違えぬようにノッチが設けられています。メモリモジュールは、一方向にしか挿入できません。メモリを挿入できない場合は、方向を変えてください。

デュアルチャンネルのメモリ設定

このマザーボードには4つのDDR3メモリソケットが装備されており、デュアルチャンネルテクノロジーをサポートします。メモリを取り付けた後、BIOSはメモリの仕様と容量を自動的に検出します。デュアルチャンネルメモリモードは、元のメモリバンド幅を2倍に拡張します。

4つのDDR3メモリソケットが2つのチャンネルに分けられ、各チャンネルには次のように2つのメモリソケットがあります：

▶チャンネル A:DDR3_2、DDR3_4

▶チャンネル B:DDR3_1、DDR3_3

CPU制限により、デュアルチャンネルモードでメモリを取り付ける前に次のガイドラインをお読みください。

- DDR3メモリモジュールが1枚のみ取り付けられている場合、デュアルチャンネルモードは有効になりません。
- 2または4枚のメモリモジュールでデュアルチャンネルモードを有効にした場合、最適なパフォーマンスを発揮するためには同じ容量、ブランド、速度、チップのメモリを使用し、同じ色のDDR3ソケットに取り付けるようにお勧めします。最適なパフォーマンスを発揮するために、2枚のメモリモジュールでデュアルチャンネルモードを有効にしているときは、DDR3_1とDDR3_2ソケットにそれらのモジュールを取り付けることをお勧めします。

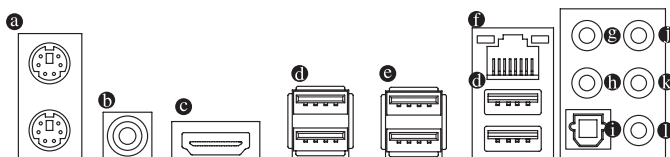
1-5 拡張カードを取り付ける



拡張カードを取り付ける前に次のガイドラインをお読みください：

- 拡張カードがマザーボードをサポートしていることを確認してください。拡張カードに付属するマニュアルをよくお読みください。
- ハードウェアが損傷する原因となるため、拡張カードを取り付ける前に必ずコンピュータのパワーをオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。

1-6 背面パネルのコネクター



㉑ PS/2 キーボードとPS/2 マウスポート

PS/2 マウスを上部ポート (緑) に、PS/2 キーボードを下部ポート (紫) に接続します。

㉒ 同軸 S/PDIFアウトコネクタ

このコネクタにより、デジタル光学オーディオをサポートする外部オーディオシステムでデジタルオーディオアウトを利用できます。この機能を使用する前に、オーディオシステムに同軸デジタルオーディオインコネクタが装備されていることを確認してください。

⑨ HDMI ポート



HDMIポートはHDCPに対応し、ドルビーTrue HDおよびDTS HDマスターオーディオ形式をサポートしています。最大192KHz/24ビットの8チャンネルPCMオーディオ出力もサポートします。このポートを使用して、HDMIをサポートするモニタに接続します。サポートする最大解像度は4096x2160ですが、サポートする実際の解像度は使用するモニタに依存します。

⑩ USB 2.0/1.1 ポート

USB ポートは USB 2.0/1.1 仕様をサポートします。USB キーボード/マウス、USB プリンタ、USB フラッシュドライブなどの USB デバイスの場合、このポートを使用します。

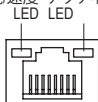
⑪ USB 3.0/2.0 ポート

USB 3.0 ポートは USB 3.0 仕様をサポートし、USB 2.0/1.1 仕様と互換性があります。USB キーボード/マウス、USB プリンタ、USB フラッシュドライブなどの USB デバイスの場合、このポートを使用します。

⑫ RJ-45 LAN ポート

Gigabit イーサネット LAN ポートは、最大 1 Gbps のデータ転送速度のインターネット接続を提供します。以下は、LAN ポート LED の状態を表します。

接続/速度 LED



LAN ポート

接続/速度 LED:

状態	説明
オレンジ	1 Gbps のデータ転送速度
緑	100 Mbps のデータ転送速度
オフ	10 Mbps のデータ転送速度

アクティビティ LED:

状態	説明
点滅	データの送受信中です
オフ	データを送受信していません

⑬ センター/サラウンドスピーカーアウト

このオーディオジャックを使って、5.1/7.1チャンネルオーディオ構成のセンター/サブウーファースピーカーを接続します。

⑭ リアスピーカーアウト

このジャックは4/5.1/7.1チャンネルのオーディオ構成でフロントスピーカーを接続するために使用することができます。

⑮ 光学 S/PDIF アウトコネクタ

このコネクタにより、デジタル光学オーディオをサポートする外部オーディオシステムでデジタルオーディオアウトを利用できます。この機能を使用する前に、オーディオシステムに光学デジタルオーディオインコネクタが装備されていることを確認してください。

⑯ ラインイン

ラインインジャックです。光ドライブ、ウォークマンなどのデバイスのラインインの場合、このオーディオジャックを使用します。

⑰ ラインアウト

ラインアウトジャックです。ヘッドフォンまたは2チャンネルスピーカーの場合、このオーディオジャックを使用します。このジャックは4/5.1/7.1チャンネルのオーディオ構成でフロントスピーカーを接続するために使用することができます。

⑱ マイクイン

マイクインジャックです。マイクは、このジャックに接続する必要があります。

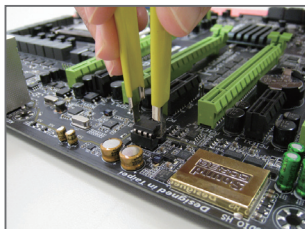


オーディオジャックは、異なる機能を実行するためオーディオソフトウェアを介して再構成することができます (サポートする機能は、ハードウェアの仕様により異なります)。マイクだけは、デフォルトのマイクインジャックに接続する必要があります。

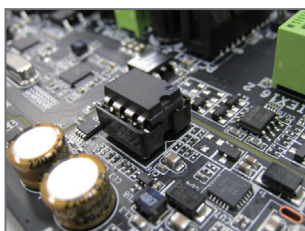


- 背面パネルコネクタに接続されたケーブルを取り外す際は、先に周辺機器からケーブルを取り外し、次にマザーボードからケーブルを取り外します。
- ケーブルを取り外す際は、コネクタから真っ直ぐに引き抜いてください。ケーブルコネクタ内部でショートする原因となるので、横に揺り動かさないでください。

1-7 作動状態の増幅器の変更



ステップ 1:
付属の IC 取り外し器具を用いて IC 側を注意深くつかみ、
ソケットから引き抜いてください。

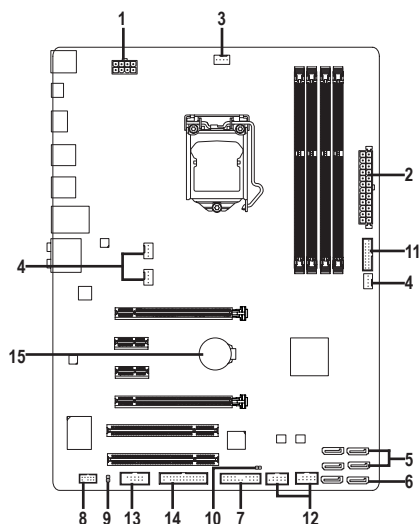


ステップ 2:
OP チップの刻み目をソケットの刻み目と揃え、チップがソ
ケットにおさまるまで徐々に押します。



IC 取り外し器具と OP チップをお買い求めの際には、ローカルの代理店にお問い合わせ下さい。

1-8 内部コネクター



1) ATX 12V 2X4	9) SPDIF O
2) ATX	10) CLR_CMOS
3) CPU FAN	11) F_USB30
4) SYS FAN1/2/3	12) F_USB1/F_USB2
5) SATA3 0/1/2/3	13) COMA
6) SATA2 4/5	14) LPT
7) F_PANEL	15) BAT
8) F_AUDIO	



外部デバイスを接続する前に、以下のガイドラインをお読みください：

- まず、デバイスが接続するコネクターに準拠していることを確認します。
- デバイスを取り付ける前に、デバイスとコンピュータのパワーがオフになっていることを確認します。デバイスが損傷しないように、コンセントから電源コードを抜きます。
- デバイスを装着した後、コンピュータのパワーをオンにする前に、デバイスのケーブルがマザーボードのコネクターにしっかり接続されていることを確認します。

1/2) ATX 12V 2X4/ATX (2x4 12V 電源コネクタと 2x12 メイン電源コネクタ)

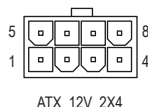
電源コネクタを使用すると、電源装置はマザーボードのすべてのコンポーネントに安定した電力を供給することができます。電源コネクタを接続する前に、まず電源装置のパワーがオフになっていること、すべてのデバイスが正しく取り付けられていることを確認してください。電源コネクタは、正しい向きでしか取り付けができないように設計されており、電源装置のケーブルを正しい方向で電源コネクタに接続します。

12V 電源コネクタは、主に CPU に電力を供給します。12V 電源コネクタが接続されていない場合、コンピュータは起動しません。



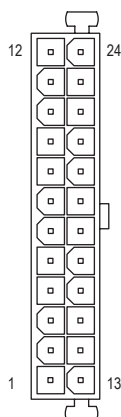
拡張要件を満たすために、高い消費電力に耐えられる電源装置をご使用になることをお勧めします (500W以上)。必要な電力を供給できない電源装置をご使用になると、システムが不安定になったり起動できない場合があります。

ATX 12V 2X4:



ATX 12V 2X4

ピン番号	定義	ピン番号	定義
1	GND (2x4ピン12Vのみ)	5	+12V (2x4ピン12Vのみ)
2	GND (2x4ピン12Vのみ)	6	+12V (2x4ピン12Vのみ)
3	GND	7	+12V
4	GND	8	+12V



ATX

ATX:

ピン番号	定義	ピン番号	定義
1	3.3V	13	3.3V
2	3.3V	14	-12V
3	GND	15	GND
4	+5V	16	PS_ON (ソフト オン/オフ)
5	GND	17	GND
6	+5V	18	GND
7	GND	19	GND
8	電源良好	20	-5V
9	5VSB (スタンバイ +5V)	21	+5V
10	+12V	22	+5V
11	+12V (2x12 ピン ATX 専用)	23	+5V (2x12 ピン ATX 専用)
12	3.3V (2x12 ピン ATX 専用)	24	GND (2x12 ピン ATX 専用)

3/4) CPU_FAN/SYS_FAN1/2/3 (ファンヘッダ)

このマザーボードのファンヘッダはすべて4ピンです。ほとんどのファンヘッダは、誤挿入防止設計が施されています。ファンケーブルを接続するとき、正しい方向に接続してください (黒いコネクタワイヤはアース線です)。速度コントロール機能を有効にするには、ファン速度コントロール設計のファンを使用する必要があります。最適の放熱を実現するために、PCケース内部にシステムファンを取り付けることをお勧めします。

CPU_FAN:



CPU_FAN

ピン番号	定義
1	GND
2	+12V
3	検知
4	速度制御



SYS_FAN1/2



SYS_FAN3

SYS_FAN1/2/3:

ピン番号	定義
1	GND
2	+12V / 速度制御
3	検知
4	VCC



- CPUとシステムを過熱から保護するために、ファンケーブルをファンヘッダに接続していることを確認してください。冷却不足はCPUが損傷したり、システムがハングアップする原因となります。
- これらのファンヘッダは設定ジャンパブロックではありません。ヘッダにジャンパキャップをかぶせないでください。

5) SATA3 0/1/2/3 (SATA 6Gb/sコネクタ)

SATA コネクタはSATA 6Gb/s に準拠し、SATA 3Gb/s および SATA 1.5Gb/s との互換性を有しています。それぞれの SATA コネクタは、単一の SATA デバイスをサポートします。



6) SATA2 4/5 (SATA 3Gb/sコネクタ)

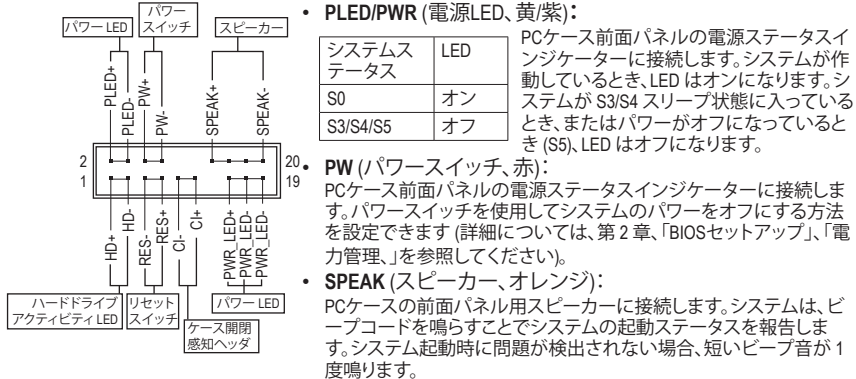
SATA コネクタはSATA 3Gb/s に準拠し、SATA 1.5Gb/s との互換性を有しています。それぞれの SATA コネクタは、単一の SATA デバイスをサポートします。



SATAポート ホットプラグを有効にするには、第2章を参照してください、「BIOSセットアップ」、「周辺機器/SATA設定」を参照してください。

7) F_PANEL (前面パネルヘッダ)

電源スイッチ、リセットスイッチ、スピーカーおよびシステム・ステータス・インジケータを下記のピン割り当てに従ってこのヘッダに接続します。接続する際には、+と-のピンに注意してください。



- **HD (ハードドライブアクティビティ LED、青):**
PCケース前面パネルのハードドライブアクティビティ LED に接続します。ハードドライブがデータの読み書きを行っているとき、LED はオンになります。
- **RES (リセットスイッチ、緑):**
PCケース前面パネルのリセットスイッチに接続します。コンピュータがフリーズし通常の再起動を実行できない場合、リセットスイッチを押してコンピュータを再起動します。
- **CI (ケース開閉感知ヘッダ、グレー):**
PCケースカバーが取り外されている場合、PCケースの検出可能なPCケース開閉感知スイッチ/センサーに接続します。この機能は、PCケース開閉感知スイッチ/センサーを搭載したPCケースを必要とします。



前面パネルのデザインは、ケースによって異なります。前面パネルモジュールは、パワースイッチ、リセットスイッチ、電源 LED、ハードドライブアクティビティ LED、スピーカーなどで構成されています。ケース前面パネルモジュールをこのヘッダに接続しているとき、ワイヤ割り当てとピン割り当てが正しく一致していることを確認してください。

8) F_AUDIO (前面パネルオーディオヘッダ)

前面パネルのオーディオヘッダは、Intel ハイデフィニションオーディオ (HD) と AC'97 オーディオをサポートします。PC ケース前面パネルのオーディオモジュールをこのヘッダに接続することができます。モジュールコネクターのワイヤ割り当てが、マザーボードヘッダのピン割り当てに一致していることを確認してください。モジュールコネクタとマザーボードヘッダ間の接続が間違っていると、デバイスは作動せず損傷することがあります。



HD 前面パネルオーディオの場合:

ピン番号	定義
1	MIC2_L
2	GND
3	MIC2_R
4	-ACZ_DET
5	LINE2_R
6	GND
7	FAUDIO_JD
8	ピンなし
9	LINE2_L
10	GND

AC'97 前面パネルオーディオの場合:

ピン番号	定義
1	MIC
2	GND
3	MIC/パワー
4	NC
5	ラインアウト(右)
6	NC
7	NC
8	ピンなし
9	ラインアウト(左)
10	NC



- 前面パネルのオーディオヘッダは、標準で HD オーディオをサポートしています。
- オーディオ信号は、前面と背面パネルのオーディオ接続の両方に同時に流れています。
- PC ケースの中には、前面パネルのオーディオモジュールを組み込んで、単一コネクタの代わりに各ワイヤのコネクタを分離しているものもあります。ワイヤ割り当てが異なっている前面パネルのオーディオモジュールの接続方法の詳細については、PC ケースメーカーにお問い合わせください。

9) SPDIF_O (S/PDIFアウトヘッダ)

このヘッダはデジタルS/PDIFアウトをサポートし、デジタルオーディオ出力用に、マザーボードからグラフィックスカードやサウンドカードのような特定の拡張カードにS/PDIF デジタルオーディオケーブル (拡張カードに付属) を接続します。例えば、グラフィックスカードの中には、HDMI ディスプレイをグラフィックスカードに接続しながら同時にHDMI ディスプレイからデジタルオーディオを出力したい場合、デジタルオーディオ出力用に、マザーボードからグラフィックスカードまでS/PDIF デジタルオーディオケーブルを使用するように要求するものもあります。


S/PDIF デジタルオーディオケーブルの接続の詳細については、拡張カードのマニュアルをよくお読みください。




ピン番号	定義
1	SPDIFO
2	GND

10) CLR_CMOS (CMOSクリアジャンパー)

このジャンパーを使用して BIOS 設定をクリアするとともに、CMOS 値を出荷時設定にリセットします。CMOS 値を消去するには、ドライバーのような金属製品を使用して2つのピンに数秒間触れます。

 オープン: Normal

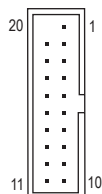
 ショート: CMOS のクリア



- CMOS 値を消去する前に、常にコンピュータの電源をオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。
- システムが再起動した後、BIOS 設定を工場出荷時に設定するか、手動で設定してください (Load Optimized Defaults 選択) BIOS 設定を手動で設定します (BIOS 設定については、第 2 章「BIOS セットアップ」を参照してください)。

11) F_USB30 (USB 3.0/2.0 ヘッド)

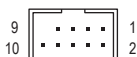
ヘッドはUSB 3.0/2.0仕様に準拠し、2つのUSBポートが装備されています。USB 3.0/2.0対応2ポートを装備するオプションの3.5"フロントパネルのご購入については、販売店にお問い合わせください。



ピン番号	定義	ピン番号	定義	ピン番号	定義
1	VBUS	8	D1-	15	SSTX2-
2	SSRX1-	9	D1+	16	GND
3	SSRX1+	10	NC	17	SSRX2+
4	GND	11	D2+	18	SSRX2-
5	SSTX1-	12	D2-	19	VBUS
6	SSTX1+	13	GND	20	ピンなし
7	GND	14	SSTX2+		

12) F_USB1/F_USB2 (USB 2.0/1.1 ヘッド)

ヘッドはUSB 2.0/1.1仕様に準拠しています。各USBヘッドは、オプションのUSBブラケットを介して2つのUSBポートを提供できます。オプションのUSBブラケットを購入する場合は、販売店にお問い合わせください。



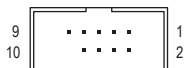
ピン番号	定義	ピン番号	定義
1	電源 (5V)	6	USB DY+
2	電源 (5V)	7	GND
3	USB DX-	8	GND
4	USB DY-	9	ピンなし
5	USB DX+	10	NC



- IEEE 1394 ブラケット (2x5 ピン) ケーブルを USB ヘッドに差し込まないでください。
- USBブラケットを取り付ける前に、USBブラケットが損傷しないように、コンピュータの電源をオフにしてからコンセントから電源コードを抜いてください。

13) COMA (シリアルポートヘッド)

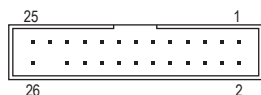
COMヘッドは、オプションのCOMポートケーブルを介して1つのシリアルポートを提供します。オプションのCOMポートケーブルを購入する場合、販売店にお問い合わせください。



ピン番号	定義	ピン番号	定義
1	ND CD-	6	NDSR-
2	NSIN	7	NRTS-
3	NSOUT	8	NCTS-
4	NDTR-	9	NRI-
5	GND	10	ピンなし

14) LPT (パラレルポートヘッダ)

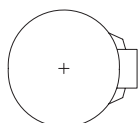
LPTヘッダは、オプションのLPTポートケーブルによって1つのパラレルポートを利用できます。オプションのLPTポートケーブルを購入する場合、販売店にお問い合わせください。



ピン番号	定義	ピン番号	定義	ピン番号	定義
1	STB-	10	GND	19	ACK-
2	AFD-	11	PD4	20	GND
3	PD0	12	GND	21	BUSY
4	ERR-	13	PD5	22	GND
5	PD1	14	GND	23	PE
6	INIT-	15	PD6	24	ピンなし
7	PD2	16	GND	25	SLCT
8	SLIN-	17	PD7	26	GND
9	PD3	18	GND		

15) BAT (バッテリー)

バッテリーは、コンピュータがオフになっているとき CMOS の値 (BIOS 設定、日付、および時刻情報など) を維持するために、電力を提供します。バッテリーの電圧が低レベルまで下がったら、バッテリーを交換してください。CMOS 値が正確に表示されなかったり、失われる可能性があります。



バッテリーを取り外すと、CMOS 値を消去できます：

1. コンピュータのパワーをオフにし、電源コードを抜きます。
2. バッテリーホルダからバッテリーをそっと取り外し、1分待ちます。(または、ドライバのような金属物体を使用してバッテリーホルダの+と-の端子に触れ、5秒間ショートさせます。)
3. バッテリーを交換します。
4. 電源コードを差し込み、コンピュータを再起動します。



- バッテリーを交換する前に、常にコンピュータのパワーをオフしてから電源コードを抜いてください。
- バッテリーを同等のバッテリーと交換します。バッテリーを正しくないモデルと交換すると、破裂する恐れがあります。
- バッテリーを交換できない場合、またはバッテリーのモデルがはっきり分からない場合、購入店または販売店にお問い合わせください。
- バッテリーを取り付けるとき、バッテリーのプラス側 (+) とマイナス側 (-) の方向に注意してください (プラス側を上に向ける必要があります)。
- 使用済みのバッテリーは、地域の環境規制に従って処理してください。

第2章 BIOS セットアップ

BIOS (Basic Input and Output System) は、マザーボード上の CMOS にあるシステムのハードウェアのパラメータを記録します。主な機能には、システム起動、システムパラメータの保存、およびオペレーティングシステムの読み込みなどを行うパワー オンセルフ テスト (POST) の実行などがあります。BIOS には、ユーザーが基本システム構成設定の変更または特定のシステム機能の有効化を可能にする BIOS セットアッププログラムが含まれています。

電源をオフにすると、CMOS の設定値を維持するためマザーボードのバッテリーが CMOS に必要な電力を供給します。

BIOS セットアッププログラムにアクセスするには、電源オン時の POST 中に <Delete> キーを押します。

BIOS をアップグレードするには、GIGABYTE Q-Flash または @BIOS ユーティリティのいずれかを使用します。

- Q-Flash により、ユーザーはオペレーティング システムに入ることなく BIOS のアップグレードまたはバックアップを素早く簡単に行えます。
- @BIOS は、インターネットから BIOS の最新バージョンを検索しダウンロードするとともに BIOS を更新する Windows ベースのユーティリティです。

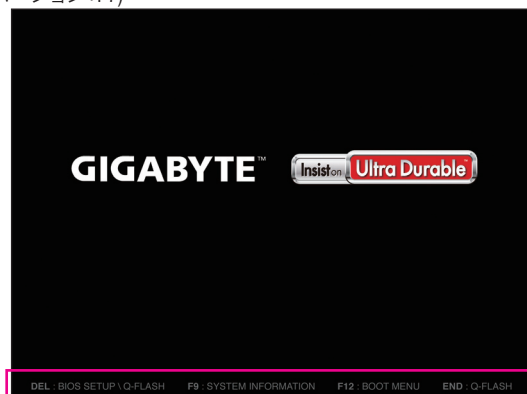


- BIOS の更新は潜在的に危険を伴うため、BIOS の現在のバージョンを使用しているときに問題が発生していない場合、BIOS を更新しないことをお勧めします。BIOS の更新は注意して行ってください。BIOS の不適切な更新は、システムの誤動作の原因となります。
- システムの不安定またはその他の予期しない結果を防ぐために、初期設定を変更しないことをお勧めします (必要な場合を除く)。誤った BIOS 設定しますと、システムは起動できません。そのようなことが発生した場合は、CMOS 値を既定値にリセットしてみてください。(CMOS 値を消去する方法については、この章の「Load Optimized Defaults」セクションまたは第1章にあるバッテリーまたは CMOS ジャンパの消去の概要を参照してください。)

2-1 起動画面

コンピュータが起動するとき、次の起動ロゴ画面が表示されます。

(サンプル BIOS バージョン:F7)



最適なパフォーマンスの為のさまざまなセッティングや、調整を行う際にユーザーが簡単にポイントし、クリックできるSTモードは幻想的でユーザーフレンドリーな環境を提供します。ST モードでは、マウスを使って、オプションメニューを移動して素早く設定したり、画面右の **Shortcuts** リストの **Classic Setup** をクリックするか、<F2> キーを押して、従来の BIOS セットアップ画面に切り替えることができます。BIOS セットアッププログラムのメインメニューで、矢印キーを押して項目間を移動し、<Enter> を押して確定するかまたはサブメニューに入ります。または、お使いのマウスで希望する項目を選択することができます。



- システムが安定しないときは、**Load Optimized Defaults** を選択してシステムをその既定値に設定します。
- 本章で説明された BIOS セットアップメニューは参考用です。項目は、BIOS のバージョンにより異なります。

2-2 M.I.T.



表示内容については、BIOS バージョン、CPU ベースクロック、CPU 周波数、メモリ周波数、合計メモリサイズ、CPU 温度、およびVcoreに関する情報が表示されます。



オーバークロック設定による安定動作については、システム全体の設定によって異なります。オーバークロック設定を間違えて設定して動作させると CPU、チップセット、またはメモリが損傷し、これらのコンポーネントの耐久年数が短くなる原因となります。このページは上級ユーザー向けであり、システムの不安定や予期せぬ結果を招く場合があるため、既定値設定を変更しないことをお勧めします。(誤ったBIOS設定をしますと、システムは起動できません。そのような場合は、CMOS 値を消去して既定値にリセットしてみてください。)

▶ M.I.T.Current Status (M.I.T 現在のステータス)

このセクションには、CPU/メモリ周波数/パラメータに関する情報が表示されます。

▶ Advanced Frequency Settings (周波数の詳細設定)

⌘ Processor Graphics Clock

オンボードグラフィックスクロックを設定できます。調整可能な範囲は 400 MHz～4000 MHz の間です。(既定値:Auto)

⌘ CPU Upgrade (注)

CPUの周波数を設定できます。設定は搭載するCPUによって異なります。(既定値:Auto)

⌘ CPU Clock Ratio

取り付けた CPU のクロック比を変更します。調整可能範囲は、取り付ける CPU によって異なります。

⌘ CPU Frequency

現在作動している CPU 周波数を表示します。

▶ Advanced CPU Core Features (CPUの詳細設定)

⌘ CPU Clock Ratio, CPU Frequency

上の項目の設定は Advanced Frequency Settings メニューの同じ項目と同期しています。

(注) この機能をサポートする CPU を取り付けている場合のみ、この項目が表示されます。Intel® CPU の固有機能の詳細については、Intel の Web サイトにアクセスしてください。

- **K OC** ^(注)
特定のCPUを使用した場合に、パフォーマンスが向上します。(既定値:Auto)
- **CPU PLL Selection**
CPU PLLを設定します。Autoでは、BIOSがこの設定を自動的に設定します。(既定値:Auto)
- **Filter PLL Level**
フィルター PLLを設定します。Autoでは、BIOSがこの設定を自動的に設定します。(既定値:Auto)
- **Uncore Ratio**
CPUのUncore ratioを設定できます。調整可能範囲は、使用されるCPUによって異なります。
- **Uncore Frequency**
現在のCPU Uncore 周波数を表示します。
- **Intel(R) Turbo Boost Technology** ^(注)
Intel CPU Turbo Boost テクノロジー機能の設定をします。Autoでは、BIOSがこの設定を自動的に設定します。(既定値:Auto)
- **Turbo Ratio (1-Core Active~4-Core Active)** ^(注)
さまざまな数のアクティブなコアに対して、CPU Turbo比を設定できます。Autoでは、CPU仕様に従ってCPU Turbo 比を設定します。(既定値:Auto)
- **Turbo Power Limit (Watts)**
CPU Turboモードの電力制限を設定できます。CPUの消費電力がこれらの指定された電力制限を超えると、CPUは電力を削減するためにコア周波数を自動的に低下します。Autoでは、CPU仕様に従って電力制限を設定します。(既定値:Auto)
- **Core Current Limit (Amps)**
CPU Turboモードの電流制限を設定できます。CPUの電流がこれらの指定された電流制限を超えると、CPUは電流を削減するためにコア周波数を自動的に低下します。Autoでは、CPU仕様に従って電力制限を設定します。(既定値:Auto)
- **No. of CPU Cores Enabled** ^(注)
使用するCPUコアを選択します。(選択可能なCPUコア数については、CPUによって異なります。)Autoでは、BIOSがこの設定を自動的に設定します。(既定値:Auto)
- **CPU Core Enabled** ^(注)
すべてのCPUコアの機能を設定できます。Autoでは、BIOSがこの設定を自動的に設定できます。(既定値:Auto)
- **Hyper-Threading Technology** ^(注)
この機能をサポートするIntel® CPU 使用時にマルチスレッディングテクノロジーの有効/無効を切り替えます。この機能は、マルチプロセッサモードをサポートするオペレーティングシステムでのみ動作します。Autoでは、BIOSがこの設定を自動的に設定します。(既定値:Auto)
- **CPU Enhanced Halt (C1E)** ^(注)
システム一時停止状態時の省電力機能で、Intel® CPU Enhanced Halt (C1E) 機能の有効/無効を切り替えます。有効になっているとき、CPUコア周波数と電圧は下げられ、システムの停止状態の間、消費電力を抑えます。Autoでは、BIOSがこの設定を自動的に設定します。(既定値:Auto)
- **C3 State Support** ^(注)
システムが停止状態になっているとき、CPUがC3モードに入るかどうかを決定します。有効になっているとき、CPUコア周波数と電圧は下げられ、システムの停止状態の間、消費電力を抑えます。C3状態は、C1より省電力状態はるかに強化されています。Autoでは、BIOSがこの設定を自動的に設定します。(既定値:Auto)

(注) この機能をサポートするCPUを取り付けている場合のみ、この項目が表示されます。Intel® CPUの固有機能の詳細については、IntelのWebサイトにアクセスしてください。

☞ **C6/C7 State Support** (注1)

システムが停止状態になっているとき、CPU が C6/C7 モードに入るかどうかを決定します。有効になっているとき、CPU コア周波数と電圧は下げられ、システムの停止状態の間、消費電力を抑えます。C6/C7 状態は、C3 より省電力状態はるかに強化されています。**Auto** では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値:Auto)

☞ **CPU Thermal Monitor** (注1)

CPU 過熱保護機能である Intel® Thermal Monitor 機能の有効 / 無効を切り替えます。有効になっているとき、CPUが過熱すると、CPU コア周波数と電圧が下がります。**Auto** では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値:Auto)

☞ **CPU EIST Function** (注1)

Enhanced Intel® Speed Step 技術 (EIST) の有効/無効を切り替えます。CPU負荷によっては、Intel EIST技術はCPU電圧とコア周波数をダイナミックかつ効率的に下げ、消費電力と熱発生量を低下させます。**Auto** では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値:Auto)

☞ **Extreme Memory Profile (X.M.P.)**(注2)

有効にすると、BIOSがXMPメモリモジュールのSPDデータを読み取り、メモリのパフォーマンスを強化することが可能です。

- ▶ Disabled この機能を無効にします。(既定値)
- ▶ Profile1 プロファイル 1 設定を使用します。
- ▶ Profile2 (注2) プロファイル 2 設定を使用します。

☞ **System Memory Multiplier**

システム メモリマルチプライヤの設定が可能になります。**Auto** は、メモリの SPD データに従ってメモリマルチプライヤを設定します。(既定値:Auto)

☞ **Memory Frequency (MHz)**

最初のメモリ周波数値は使用されるメモリの標準の動作周波数で、2 番目の値は **System Memory Multiplier** 設定に従って自動的に調整されるメモリ周波数です。

▶ **Advanced Memory Settings (メモリの詳細設定)**

☞ **Extreme Memory Profile (X.M.P.)**(注2)、**System Memory Multiplier**、**Memory Frequency(MHz)**
上の項目の設定は Advanced Frequency Settings メニューの同じ項目と同期しています。

☞ **Memory Boot Mode** (注2)

メモリチェックと動作方法の設定を行います。

- ▶ Auto BIOSでこの設定を自動的に構成します。(既定値)
- ▶ Enable Fast Boot 高速メモリブート可能なメモリ検出を行います。
- ▶ Disable Fast Boot ブート時にメモリ1本1本の順にチェックを行います。

☞ **Memory Initialization Mode**

異なる周波数のメモリタイミングプロファイルを設定することができます。オプション:Auto (既定値)、Normal Speed、High Speed、Extreme Speed。

☞ **Memory Enhancement Settings (メモリの拡張設定)**

3種類のメモリーパフォーマンスの設定を行います:Normal (基本性能)、Enhanced Stability、Enhanced Performance。(既定値:Normal)

☞ **Memory Timing Mode**

Manual と **Advanced Manual** では、**Channel Interleaving**、**Rank Interleaving**、および以下のメモリのタイミング設定を構成できます。オプション:Auto (既定値)、Manual、Advanced Manual。

(注1) この機能をサポートする CPU を取り付けている場合のみ、この項目が表示されます。Intel® CPUの固有機能の詳細については、Intel の Web サイトにアクセスしてください。

(注2) この機能をサポートするCPUとメモリモジュールを取り付けているときのみ、この項目が表示されます。

➤ **Profile DDR Voltage**

Non-XMPメモリーモジュール、または**Extreme Memory Profile (X.M.P.)**を使用する場合は**無効**に設定され、その値は、メモリの仕様にに応じて表示されます。**Extreme Memory Profile (X.M.P.)**が**Profile 1**または**Profile 2**に設定されているとき、この項目はXMPメモリのSPDデータに基づく値を表示します。

➤ **Channel Interleaving**

メモリーチャンネルのインターリーピングの有効/無効を切り替えます。**Enabled** (有効) 設定にすると、システムはメモリのさまざまなチャンネルに同時にアクセスしてメモリーパフォーマンスと安定性の向上を図ります。**Auto** では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値: Auto)

➤ **Rank Interleaving**

メモリーランクのインターリーピングの有効/無効を切り替えます。**Enabled** (有効) 設定にすると、システムはメモリのさまざまなランクに同時にアクセスしてメモリーパフォーマンスと安定性の向上を図ります。**Auto**では、BIOSがこの設定を自動的に設定できます。(既定値: Auto)

▶ **Channel A/B Memory Sub Timings**

このサブメニューでは、メモリの各チャンネルのメモリータイミング設定を行います。このサブメニューでは、メモリの各チャンネルのメモリータイミング設定を行います。タイミング設定の各画面は、**Memory Timing Mode**が**Manual**または**Advanced Manual**の場合のみ設定可能です。注:メモリのタイミングを変更後、システムが不安定になったり起動できなくなることがあります。その場合、最適化された初期設定を読み込むかまたは CMOS 値を消去することでリセットしてみてください。

▶ **Advanced Voltage Settings (詳細な電圧設定)**

このサブメニューにより、CPU、チップセット、およびメモリー電圧の設定が可能になります。

▶ **PC Health Status**

➤ **Reset Case Open Status**

- Disabled 過去のケース開閉状態の記録を保持または消去します。(既定値)
- Enabled 過去のケース開閉状態の記録をクリアします。次回起動時、Case Open フィールドに「No」と表示されます。

➤ **Case Open**

マザーボードの CI ヘッドに接続されたケース開閉の検出状態を表示します。システムケースのカバーが外れている場合、このフィールドが「Yes」になります。そうでない場合は「No」になります。ケースの開閉状態の記録を消去したい場合は、**Reset Case Open Status**を**Enabled**にして、設定を CMOS に保存してからシステムを再起動します。

➤ **CPU Vcore/CPU VRIN/DRAM Voltage/+3.3V/+5V/+12V/CPU VAXG**

現在のシステム電圧を表示します。

➤ **CPU/System Temperature**

現在の CPU/システムの温度を表示します。

➤ **CPU/System Fan Speed**

現在の CPU/システムのファン速度を表示します。

➤ **CPU/System Temperature Warning**

CPU/システム温度警告のしきい値を設定します。CPU の温度がしきい値を超えた場合、BIOS が警告音を発します。オプション: Disabled (既定値)、60°C/140°F、70°C/158°F、80°C/176°F、90°C/194°F。

➤ **CPU/System Fan Fail Warning**

ファンが接続されているか失敗したかで、システムは警告を出します。警告があった場合、ファンの状態またはファンの接続を確認してください。(既定値: Disabled)

☞ CPU Fan Speed Control

ファン速度コントロール機能を有効にして、ファン速度を調整します。

- ▶▶ Normal 温度に従って異なる速度でファンを動作させることができます。システム要件に基づいて、EasyTuneでファン速度を調整することができます。(既定値)
- ▶▶ Silent ファンを低速度で作動します。
- ▶▶ Manual **Slope PWM** 項目の下で、ファンの速度をコントロールします。
- ▶▶ Disabled ファンを全速で作動します。

☞ Fan Speed Percentage

ファン速度をコントロールします。**CPU Fan Speed Control** が **Manual** に設定されている場合のみ、この項目を構成できます。オプション: 0.75 PWM value /°C ~ 2.50 PWM value /°C。

☞ 1st System Fan Speed Control (SYS_FAN1 コネクター)

ファン速度コントロール機能を有効にして、ファン速度を調整します。

- ▶▶ Normal 温度に従って異なる速度でファンを動作させることができます。システム要件に基づいて、EasyTuneでファン速度を調整することができます。(既定値)
- ▶▶ Silent ファンを低速度で作動します。
- ▶▶ Manual **Slope PWM** 項目の下で、ファンの速度をコントロールします。
- ▶▶ Disabled ファンを全速で作動します。

☞ Fan Speed Percentage

システムファン速度をコントロールします。**1st System Fan Speed Control** が **Manual** に設定されている場合のみ、この項目を構成できます。オプション: 0.75 PWM value /°C ~ 2.50 PWM value /°C。

☞ 2nd/3rd System Fan Speed Control

ファン速度コントロール機能を有効にして、ファン速度を調整します。

- ▶▶ Normal 温度に従って異なる速度でファンを動作させることができます。システム要件に基づいて、EasyTuneでファン速度を調整することができます。(既定値)
- ▶▶ Silent ファンを低速度で作動します。
- ▶▶ Manual **Slope PWM** 項目の下で、ファンの速度をコントロールします。
- ▶▶ Disabled ファンを全速で作動します。

☞ Fan Speed Percentage

システムファン速度をコントロールします。**2nd/3rd System Fan Speed Control** が **Manual** に設定されている場合のみ、この項目を構成できます。オプション: 0.75 PWM value /°C ~ 2.50 PWM value /°C。

▶ Miscellaneous Settings (その他の設定)

☞ PCIe Slot Configuration

PCI Expressスロットの動作モードをGen 1、Gen 2、またはGen 3に設定できます。実際の動作モードは、各スロットのハードウェア仕様によって異なります。**Auto**では、BIOSがこの設定を自動的に設定できます。(既定値: Auto)

☞ 3DMark01 Boost

一部の従来のベンチマーク性能を向上させることができます。(既定値: Disabled)

2-3 System (システム)



このセクションでは、マザーボードモデルおよび BIOS バージョンの情報を表示します。また、BIOS が使用する既定の言語を選択して手動でシステム時計を設定することもできます。

System Language

BIOS が使用する既定の言語を選択します。

System Date

システムの日付を設定します。<Enter> で Month (月)、Date (日)、および Year (年) フィールドを切り替え、<Page Up> キーと <Page Down> キーで設定します。

System Time

システムの時計を設定します。時計の形式は時、分、および秒です。例えば、1 p.m. は 13:0:0 です。<Enter> で Hour (時間)、Minute (分)、および Second (秒) フィールドを切り替え、<Page Up> キーと <Page Down> キーで設定します。

Access Level

使用するパスワード保護のタイプによって現在のアクセスレベルを表示します。(パスワードが設定されていない場合、既定では Administrator (管理者) として表示されます。)管理者レベルでは、すべての BIOS 設定を変更することが可能です。ユーザーレベルでは、すべてではなく特定の BIOS 設定のみが変更できます。

2-4 BIOS Features (BIOS の機能)



Boot Option Priorities

使用可能なデバイスから全体の起動順序を指定します。例えば、ハードドライブを優先度 1 (Boot Option #1) に設定し、DVD ROM ドライブを優先度 2 (Boot Option #2) に設定します。リストは、認識されているデバイスの優先度が高い順を表示します。例えば、**Hard Drive BBS Priorities** サブメニューで優先度 1 と設定されたハードドライブのみがここに表示されます。起動デバイスリストでは、GPT 形式をサポートするリムーバブルストレージ デバイスの前に「UEFI:」が付きます。GPT パーティショニングをサポートするオペレーティングシステムから起動するには、前に「UEFI:」が付いたデバイスを選択します。また、Windows 7 (64 ビット) など GPT パーティショニングをサポートするオペレーティングシステムをインストールする場合は、Windows 7 (64 ビット) インストールディスクを挿入し前に「UEFI:」が付いた光学ドライブを選択します。

Hard Drive/CD/DVD ROM Drive/Floppy Drive/Network Device BBS Priorities

ハードドライブ、光ドライブ、フロッピーディスクドライブ、LAN 機能からの起動をサポートするデバイスなど特定のデバイス タイプの起動順序を指定します。このアイテムで <Enter> を押すと、接続された同タイプのデバイスを表すサブメニューに入ります。上記タイプのデバイスが1つでもインストールされていれば、この項目は表示されます。

Bootup NumLock State

POST 後にキーボードの数字キーパッドにある NumLock 機能の有効 / 無効を切り替えます。(既定値: Enabled)

Security Option

パスワードは、システムが起動時、または BIOS セットアップに入る際に指定します。このアイテムを設定した後、BIOS メインメニューの **Administrator Password/User Password** アイテムの下でパスワードを設定します。

- ▶ Setup パスワードは BIOS セットアッププログラムに入る際にのみ要求されます。
- ▶ System パスワードは、システムを起動したり BIOS セットアッププログラムに入る際に要求されます。(既定値)

➤ **Full Screen LOGO Show**

システム起動時に、GIGABYTEロゴの表示設定をします。**Disabled** にすると、システム起動時に GIGABYTE ロゴをスキップします。(既定値:Enabled)

➤ **Fast Boot**

Fast Boot を有効または無効にして OS の起動処理を短縮します。**Ultra Fast** では起動速度が最速になります。(既定値:Disabled)

➤ **VGA Support**

起動するオペレーティングシステム種別が選択できます。

➤ Auto 従来のオプション ROM のみを有効にします。

➤ EFI Driver EFI オプション ROM を有効にします。(既定値)

この項目は、**Fast Boot** が **Enabled** または **Ultra Fast** に設定された場合のみ設定可能です。

➤ **USB Support**

➤ Disabled OS ブートプロセスが完了するまで、全 USB デバイスは無効になっています。

➤ Full Initial オペレーティングシステムおよび POST 中は、全 USB デバイスは機能します。

➤ Partial Initial OS ブートプロセスが完了するまで、一部の USB デバイスは無効になっています。(既定値)

Fast Boot が **Enabled** に設定されている場合のみ、この項目を構成できます。**Fast Boot** が **Ultra Fast** に設定されている場合、この項目は無効になります。

➤ **PS2 Devices Support**

➤ Disabled OS ブートプロセスが完了するまで、全 PS/2 デバイスは無効になっています。

➤ Enabled オペレーティングシステムおよび POST 中は、全 PS/2 デバイスは機能します。(既定値)

Fast Boot が **Enabled** に設定されている場合のみ、この項目を構成できます。**Fast Boot** が **Ultra Fast** に設定されている場合、この項目は無効になります。

➤ **NetWork Stack Driver Support**

➤ Disabled ネットワークからのブートを無効にします。(既定値)

➤ Enabled ネットワークからのブートを有効にします。

この項目は、**Fast Boot** が **Enabled** または **Ultra Fast** に設定された場合のみ設定可能です。

➤ **Next Boot After AC Power Loss**

➤ Normal Boot 電源復帰後に通常起動をします。(既定値)

➤ Fast Boot 電源復帰後も Fast Boot 設定を維持します。

この項目は、**Fast Boot** が **Enabled** または **Ultra Fast** に設定された場合のみ設定可能です。

➤ **Limit CPUID Maximum** (注)

CPUID 最大値の制限設定を行います。Windows XP ではこのアイテムを **Disabled** に設定し、Windows NT4.0 など従来のオペレーティングシステムでは **Enabled** に設定します。(既定値:Disabled)

➤ **Execute Disable Bit** (注)

Intel® Execute Disable Bit (Intel メモリ保護) 機能の有効/無効を切り替えます。この機能は、コンピュータの保護を拡張して、サポートするソフトウェアおよびシステムと一緒に使用することでウィルスの放出および悪意のあるバツファのオーバーフロー攻撃を減少させることができます。(既定値:Enabled)

➤ **Intel Virtualization Technology** (注)

Intel® Virtualization テクノロジーの有効/無効を切り替えます。Intel® 仮想化技術によって強化されたプラットフォームは独立したパーティションで複数のオペレーティングシステムとアプリケーションを実行できます。仮想化技術では、1つのコンピュータシステムが複数の仮想化システムとして機能できます。(既定値:Enabled)

(注) この機能をサポートする CPU を取り付けている場合のみ、この項目が表示されます。Intel® CPU の固有機能の詳細については、Intel の Web サイトにアクセスしてください。

☞ **Intel TXT(LT) Support^(注)**

Intel® Trusted Execution Technology (Intel® TXT) を有効または無効にします。Intel® Trusted Execution Technology は、ハードウェアベースのセキュリティを提供します。(既定値: Disabled)

☞ **VT-d^(注)**

Directed I/O 用 Intel® Virtualization テクノロジーの有効/無効を切り替えます。(既定値: Enabled)
Intel Execute Disable Bit (Intelメモリ保護) 機能の有効/無効を切り替えます。この機能は、コンピュータの保護を拡張して、サポートするソフトウェアおよびシステムと一緒に使用することでウィルスの放出および悪意のあるバッファのオーバーフロー攻撃を減少させることができます。(既定値: Enabled)

☞ **Windows 8 Features**

インストールするオペレーティングシステムを選択することができます。(既定値: Other OS)

☞ **CSM Support**

従来のPC起動プロセスをサポートするには、UEFI CSM (Compatibility Software Module) を有効または無効にします。

▶ Always UEFI CSMを有効にします。(既定値)

▶ Never UEFI CSMを無効にし、UEFI BIOS起動プロセスのみをサポートします。

Windows 8 Features が **Windows 8** または **Windows 8 WHQL** に設定されている場合のみ、この項目を設定できます。

☞ **Boot Mode Selection**

起動するオペレーティングシステム種別が選択できます。

▶ UEFI and Legacy 従来のオプションROMまたはUEFIのオプションROMをサポートするオペレーティングシステムから起動できます。(既定値)

▶ Legacy only 従来のオプションROMのみをサポートするオペレーティングシステムから起動できます。

▶ UEFI only UEFIのオプションROMのみをサポートするオペレーティングシステムから起動できます。

CSM Support が **Always** に設定されている場合のみ、この項目を設定できます。

☞ **LAN PXE Boot Option ROM**

LANコントローラーの従来のオプションROMを有効にすることができます。(既定値: Disabled)

CSM Support が **Always** に設定されている場合のみ、この項目を設定できます。

☞ **Storage Boot Option Control**

ストレージデバイスコントローラーについて、UEFIまたはレガシーのオプションROMを有効にするかを選択できます。

▶ Disabled オプションROMを無効にします。

▶ Legacy only レガシーのオプションROMのみを有効にします。(既定値)

▶ UEFI only UEFIのオプションROMのみを有効にします。

▶ Legacy First レガシーのオプションROMを先に有効にします。

▶ UEFI First UEFIのオプションROMを先に有効にします。

CSM Support が **Always** に設定されている場合のみ、この項目を設定できます。

☞ **Other PCI Device ROM Priority**

LAN、ストレージデバイス、およびグラフィックスROMなどを起動させる設定ができます。UEFIまたはレガシーのオプションROMを有効にするかを選択できます。

▶ Legacy OpROM 従来のオプションROMのみを有効にします。

▶ UEFI OpROM UEFIのオプションROMのみを有効にします。(既定値)

CSM Support が **Always** に設定されている場合のみ、この項目を設定できます。

☞ **Network stack**

Windows Deployment ServicesサーバーのOSのインストールなど、GPT形式のOSをインストールするためのネットワーク起動の有効/無効を切り替えます。(既定値: Disabled)

(注) この機能をサポートする CPU を取り付けている場合のみ、この項目が表示されます。Intel® CPU の固有機能の詳細については、Intel の Web サイトにアクセスしてください。

➤ **Ipv4 PXE Support**

IPv4 PXEサポートの有効/無効を切り替えます。**Network stack**が有効になっている場合のみ、この項目を構成できます。

➤ **Ipv6 PXE Support**

IPv6 PXEサポートの有効/無効を切り替えます。**Network stack**が有効になっている場合のみ、この項目を構成できます。

➤ **Administrator Password**

管理者パスワードの設定が可能になります。この項目で <Enter> を押し、パスワードをタイプし、続いて <Enter> を押します。パスワードを確認するよう求められます。再度パスワードをタイプして、<Enter> を押します。システム起動時およびBIOS セットアップに入るときは、管理者パスワード(またはユーザー パスワード)を入力する必要があります。ユーザーパスワードと異なり、管理者パスワードではすべての BIOS 設定を変更することが可能です。

➤ **User Password**

ユーザーパスワードの設定が可能になります。この項目で <Enter> を押し、パスワードをタイプし、続いて <Enter> を押します。パスワードを確認するよう求められます。再度パスワードをタイプして、<Enter> を押します。システム起動時およびBIOS セットアップに入るときは、管理者パスワード(またはユーザー パスワード)を入力する必要があります。しかし、ユーザーパスワードでは、変更できるのはすべてではなく特定の BIOS 設定のみです。

パスワードをキャンセルするには、パスワード項目で <Enter> を押します。パスワードを求められたら、まず正しいパスワードを入力します。新しいパスワードの入力を求められたら、パスワードに何も入力しないで <Enter> を押します。確認を求められたら、再度 <Enter> を押します。

2-5 Peripherals (周辺機器)



➤ **Initial Display Output**

取り付けたPCIグラフィックスカード、PCI Expressグラフィックスカード、またはオンボードVGAから、最初に呼び出すモニタディスプレイを指定します。

- IGFX 最初のディスプレイとしてオンボードグラフィックスを設定します。
- PCIe 1 Slot 最初のディスプレイとして、PCIEX16 スロットにあるグラフィックカードを設定します。(既定値)

- ▶▶ PCIe 2 Slot 最初のディスプレイとして、PCIEX4 スロットにあるグラフィックカードを設定します。
- ▶▶ PCI PCI スロットにあるグラフィックスカードを最初に処理するディスプレイカードとして設定します。
- 🔍 **PCH LAN Controller**
オンボードLAN機能の有効/無効を切り替えます。(既定値: Enabled)
オンボードLANを使用する代わりに、サードパーティ製増設用ネットワークカードをインストールする場合、この項目を **Disabled** に設定します。
- 🔍 **XHCI Mode**
OSのxHCIコントローラーのオペレーティングモードを決定できます。
 - ▶▶ Smart Auto BIOSがブート前環境でxHCIコントローラーをサポートしている場合のみこのモードが使用可能です。このモードは**Auto**に類似していますが、ブート前環境で (非G3ブートの場合) 前回ブート時に使用した設定に従ってxHCIまたはEHCIにポートをルーティングする機能を追加します。OSの起動前にUSB 3.0デバイスの使用が可能になります。前回のブートでポートをEHCIにルーティングした場合、xHCIコントローラーの有効化とリルーティングは、**Auto**のステップに従って行います。注: BIOSがxHCIの起動前サポートに対応している場合に推奨するモードです。(既定値)
 - ▶▶ Auto BIOSは、共有ポートをEHCIコントローラーにルーティングします。続いて、ACPIプロトコルを用いてxHCIコントローラーの有効化と共有ポートのリルーティングを可能にするオプションを提供します。注: BIOSがxHCIのブート前サポートに対応していない場合に推奨するモードです。
 - ▶▶ Enabled 結果として、すべての共有ポートがBIOSの起動プロセス中にxHCIコントローラーにルーティングされます。BIOSがxHCIコントローラーの起動前サポートに対応していない場合、最初は共有ポートをEHCIコントローラーにルーティングする必要があります。注: このモードではOSがxHCIコントローラーにサポートしている必要があります。OSがサポートしていない場合、すべての共有ポートが動作しません。
 - ▶▶ Disabled USB 3.0ポートはEHCIコントローラーにルーティングし、xHCIコントローラーをオフにします。すべてのUSB 3.0デバイスは、xHCIソフトウェアのサポートが使用可能かに関係なく高速デバイスとして機能します。
 - ▶▶ Manual OS の起動前に USB 3.0 ポートを xHCI または EHCI コントローラーにルーティングするかを決定します。また、各 USB 3.0/2.0 ポートを xHCI または EHCI に手動ルーティングするオプションが設けられています。
- 🔍 **Audio Controller**
オンボードオーディオ機能の有効/無効を切り替えます。(既定値: Auto)
オンボードオーディオを使用する代わりに、サードパーティ製拡張オーディオカードをインストールする場合、この項目を **Disabled** に設定します。
- 🔍 **Audio LED**
オンボードオーディオLEDの有効/無効を切り替えます。(既定値: Enabled)
- 🔍 **Intel Processor Graphics**
オンボードグラフィックス機能の有効/無効を切り替えます。(既定値: Enabled)
- 🔍 **Intel Processor Graphics Memory Allocation**
オンボードグラフィックスのメモリサイズを設定できます。オプション: 32M~1024M。(既定値: 64M)
- 🔍 **DVMT Total Memory Size**
オンボードグラフィックスのDVMTメモリサイズを割り当てることができます。オプション: 128M、256M、MAX。(既定値: MAX)

- ☞ **Intel(R) Rapid Start Technology**
Intel® Rapid Start テクノロジーを有効または無効にします。(既定値:Disabled)
- ☞ **Legacy USB Support**
USB キーボード/マウスを MS-DOS で使用できるようにします。(既定値:Enabled)
- ☞ **XHCI Hand-off**
XHCI ハンドオフのサポートなしでオペレーティングシステムの XHCI ハンドオフ機能を有効にするかを決定します。(既定値:Enabled)
- ☞ **EHCI Hand-off**
EHCI ハンドオフのサポートなしでオペレーティングシステムの EHCI ハンドオフ機能を有効にするかを決定します。(既定値:Disabled)
- ☞ **USB Storage Devices**
接続された USB 大容量デバイスのリストを表示します。この項目は、USBストレージデバイスがインストールされた場合のみ表示されます。
- ▶ **SATA Configuration**
- ☞ **Integrated SATA Controller**
統合されたSATAコントローラーの有効/無効を切り替えます。(既定値:Enabled)
- ☞ **SATA Mode Selection**
チップセットに統合された SATAコントローラーをAHCIモードに構成するかどうかを決定します。
 - ▶ IDE SATA コントローラーを IDE モードに構成します。
 - ▶ AHCI SATA コントローラーを AHCI モードに構成します。Advanced Host Controller Interface (AHCI) は、ストレージドライバが NCQ (ネイティブ・コマンド・キューイング) およびホットプラグなどの高度なシリアルATA機能を有効にできるインターフェイス仕様です。(既定値)
- ▶ **Serial ATA Port 0/1/2/3/4/5**
- ☞ **Port 0/1/2/3/4/5**
各SATAポートを有効または無効にします。(既定値:Enabled)
- ☞ **Hot plug**
各SATAポートのホットプラグ機能を有効または無効にします。(既定値:Disabled)
- ☞ **External SATA**
追加SATAデバイスの有効/無効を切り替えます。(既定値:Disabled)
- ▶ **Super IO Configuration**
このセクションでは、スーパー I/O チップ上の情報を提供し、シリアルポートとパラレルポートを設定します。
- ☞ **Serial Port A**
オンボードシリアルポートの有効/無効を切り替えます。(既定値:Enabled)
- ☞ **Parallel Port**
オンボードパラレルポートの有効/無効を切り替えます。(既定値:Enabled)
- ☞ **Device Mode**
Parallel Port が Enabled に設定されている場合のみ、この項目を構成できます。オンボードパラレルポート (LPT)、EPPモード (エンハンスト パラレルポート)、ECPモード (エクステンデッド キャパビリティーズ ポート)あるいはEPPモード&ECPモードからオペレーティングモードを選択してください。
- ▶ **Intel(R) Smart Connect Technology**
- ☞ **ISCT Support**
Intel® Smart Connect Technology の有効/無効を切り替えます。(既定値:Disabled)
- ▶ **Intel(R) Ethernet Network Connection**
このサブメニューは、LAN 構成と関連する構成オプションの情報を提供します。

2-6 Power Management (電力管理)



- Power Loading

ダミーローディング機能の有効/無効を切り替えます。パワーサプライユニットのローディングが低いためにシステムのシャットダウンや起動に失敗する場合は、有効に設定してください。**Auto** では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値: Auto)
- Resume by Alarm

任意の時間に、システムの電源をオンに設定します。(既定値: Disabled)
有効になっている場合、以下のように日時を設定してください:

 - ▶▶ Wake up day: ある月の毎日または特定の日の特定の時間にシステムをオンにします。
 - ▶▶ Wake up hour/minute/second: 自動的にシステムの電源がオンになる時間を設定します。

注: この機能を使う際は、オペレーティングシステムからの不適切なシャットダウンまたは AC 電源の取り外しはしないで下さい。そのような行為をした場合、設定が有効にならないことがあります。
- Wake on LAN

呼び起こし LAN 機能の有効/無効を切り替えます。(既定値: Enabled)
- ErP

S5 (シャットダウン) 状態でシステムの消費電力を最小に設定します。(既定値: Disabled)
注: このアイテムを **Enabled** に設定すると、次の機能が使用できなくなります。PME イベントからの起動、マウスによる電源オン、キーボードによる電源オン、LAN からの起動。
- Soft-Off by PWR-BTTON

電源ボタンで MS-DOS モードのコンピュータの電源をオフにする設定をします。

 - ▶▶ Instant-Off 電源ボタンを押すと、システムの電源は即時にオフになります。(既定値)
 - ▶▶ Delay 4 Sec 電源ボタンを 4 秒間長押しすると、システムの電源がオフになります。パワーボタンを押して 4 秒以内に放すと、システムはサスペンドモードに入ります。
- RC6(Render Standby)

オンボードグラフィックスをスタンバイモードに入れて消費電力を削減するかどうかを決定できます。(既定値: Disabled)
- AC BACK

AC 電源損失から電源復帰した後のシステム状態を決定します。

 - ▶▶ Memory AC 電源が戻ると、システムは既知の最後の稼働状態に戻ります。

- ▶▶ Always On AC 電源が戻るとシステムの電源はオンになります。
- ▶▶ Always Off AC 電源が戻ってもシステムの電源はオフのままです。(既定値)

Power On By Keyboard

PS/2 キーボードのからの入力によりシステムの電源をオンにすることが可能です。
 注:この機能を使用するには、+5VSBリードで1A以上を提供するATX電源装置が必要です。

- ▶▶ Disabled この機能を無効にします。(既定値)
- ▶▶ Any Key キーボードのいずれかのキーを押してシステムの電源をオンにします。
- ▶▶ Keyboard 98 Windows 98 キーボードの POWER ボタンを押してシステムの電源をオンにします。
- ▶▶ Password 1~5 文字でシステムをオンにするためのパスワードを設定します。

Power On Password

Power On By Keyboard が **Password** に設定されているとき、パスワードを設定します。
 このアイテムで <Enter> を押して 5 文字以内でパスワードを設定し、<Enter> を押して受け入れます。システムをオンにするには、パスワードを入力し <Enter> を押します。
 注:パスワードをキャンセルするには、このアイテムで <Enter> を押します。パスワードを求められたとき、パスワードを入力せずに <Enter> を再び押すとパスワード設定が消去されます。

Power On By Mouse

PS/2 マウスからの入力により、システムをオンにします。
 注:この機能を使用するには、+5VSBリードで1A以上を提供するATX電源装置が必要です。

- ▶▶ Disabled この機能を無効にします。(既定値)
- ▶▶ Move マウスを移動してシステムの電源をオンにします。
- ▶▶ Double Click マウスの左ボタンをダブルクリックすると、システムのパワーがオンになります。

2-7 Save & Exit (保存して終了)



Save & Exit Setup

この項目で <Enter> を押し、**Yes** を選択します。これにより、CMOS の変更が保存され、BIOS セットアッププログラムを終了します。**No** を選択するかまたは <Esc> を押すと、BIOS セットアップのメインメニューに戻ります。


- **Exit Without Saving**
この項目で <Enter> を押し、**Yes** を選択します。これにより、CMOS に対して行われた BIOS セットアップへの変更を保存せずに、BIOS セットアップを終了します。**No** を選択するかまたは <Esc> を押すと、BIOS セットアップのメインメニューに戻ります。
- **Load Optimized Defaults**
この項目で <Enter> を押し、**Yes** を選択して BIOS の最適な初期設定を読み込みます。BIOS の初期設定は、システムが最適な状態で稼働する助けをします。BIOS のアップデート後または CMOS 値の消去後には必ず最適な初期設定を読み込みます。
- **Boot Override**
直ちに起動するデバイスを選択できます。選択したデバイスで <Enter> を押し、**Yes** を選択して確定します。システムは自動で再起動してそのデバイスから起動します。
- **Save Profiles**
この機能により、現在の BIOS 設定をプロファイルに保存できるようになります。最大 8 つのプロファイルを作成し、セットアッププロファイル 1～セットアッププロファイル 8 として保存することができます。<Enter> を押して終了します。または **Select File in HDD/USB/FDD** を選択してプロファイルをストレージデバイスに保存します。
- **Load Profiles**
システムが不安定になり、BIOS の既定値設定をロードした場合、この機能を使用して前に作成されたプロファイルから BIOS 設定をロードすると、BIOS 設定をわざわざ設定しなおす煩わしさを避けることができます。まず読み込むプロファイルを選択し、<Enter> を押して完了します。**Select File in HDD/USB/FDD** を選択すると、お使いのストレージデバイスから以前作成したプロファイルを入力したり、正常動作していた最後の BIOS 設定 (最後の既知の良好レコード) に戻すなど、BIOS が自動的に作成したプロファイルを読み込むことができます。

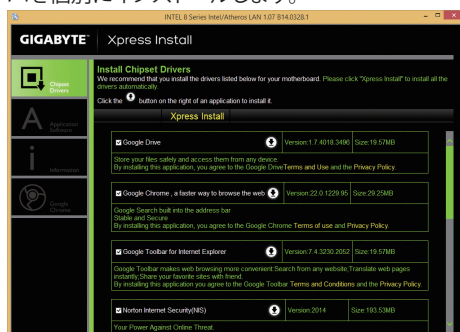
第 3 章 付録

ドライバのインストール



- ドライバをインストールする前に、まずオペレーティングシステムをインストールします。(以下の指示は、例として Windows 8.1 オペレーティングシステムを使用します。)
- オペレーティングシステムをインストールした後、マザーボードのドライバディスクを光学ドライブに挿入します。画面右上隅のメッセージ「このディスクの操作を選択するにはタップしてください」をクリックし、「Run.exe の実行」を選択します。(またはマイコンピュータで光学ドライブをダブルクリックし、Run.exe プログラムを実行します。)

「Xpress Install」はシステムを自動的にスキャンし、インストールに推奨されるすべてのドライバをリストアップします。**Xpress Install** ボタンをクリックすると、「Xpress Install」が選択されたすべてのドライバをインストールします。または、矢印  アイコンをクリックすると、必要なドライバを個別にインストールします。



ソフトウェアについては、GIGABYTE のウェブサイト
にアクセスしてください。

規制声明

規制に関する注意

この文書は、当社の書面による許可なしにコピーできません、また内容を第三者への開示や不正な目的で使用することはできず、違反した場合は起訴されることになります。当社はここに記載されている情報は印刷時にすべての点で正確であるとし、しかしこのテキスト内の誤りまたは脱落に対してGIGABYTEは一切の責任を負いません。また本文書の情報は予告なく変更することがありますが、GIGABYTE社による変更の確約ではありません。

環境を守ることに對する当社の約束

高効率パフォーマンスだけでなく、すべてのGIGABYTEマザーボードはRoHS (電気電子機器に関する特定有害物質の制限)とWEEE (廃電気電子機器)環境指令、およびほとんどの主な世界的安全要件を満たしています。環境中に有害物質が解放されることを防ぎ、私たちの天然資源を最大限に活用するために、GIGABYTEではあなたの「耐用年数を経た」製品のほとんどの素材を責任を持ってリサイクルまたは再使用するための情報を次のように提供します。

RoHS(危険物質の制限)指令声明

GIGABYTE製品は有害物質(Cd、Pb、Hg、Cr+6、PBDE、PBB)を追加する意図はなく、そのような物質を避けています。部分とコンポーネントRoHS要件を満たすように慎重に選択されています。さらに、GIGABYTEは国際的に禁止された有毒化学薬品を使用しない製品を開発するための努力を続けています。

WEEE(廃電気電子機器)指令声明

GIGABYTEは2002/96/EC WEEE(廃電気電子機器)の指令から解釈されるように国の法律を満たしています。WEEE指令は電気電子デバイスとそのコンポーネントの取り扱い、回収、リサイクル、廃棄を指定します。指令に基づき、中古機器はマークされ、分別回収され、適切に廃棄される必要があります。

WEEE記号声明



以下に示した記号が製品にあるいは梱包に記載されている場合、この製品を他の廃棄物と一緒に廃棄してはいけません。代わりに、デバイスを処理、回収、リサイクル、廃棄手続きを行うために廃棄物回収センターに持ち込む必要があります。廃棄時に廃機器を分別回収またはリサイクルすることにより、天然資源が保全され、人間の健康と環境を保護するやり方でリサイクルされることが保証されます。リサイクルのために廃機器を持ち込むことのできる場所の詳細については、最寄りの地方自治体事務所、家庭ごみ廃棄サービス、また製品の購入店に環境に優しい安全なリサイクルの詳細をお尋ねください。

- 電気電子機器の耐用年数が過ぎたら、最寄りのまたは地域の回収管理事務所に「戻し」リサイクルしてください。
- 耐用年数を過ぎた製品のリサイクルや再利用についてさらに詳しいことをお知らせしたい場合、製品のユーザーマニュアルに記載の連絡先にお問い合わせください。できる限りお客様のお力になれるように努めさせていただきます。

最後に、本製品の省エネ機能を理解して使用し、また他の環境に優しい習慣を身につけて、本製品購入したときの梱包の内装と外装 (運送用コンテナを含む) をリサイクルし、使用済みバッテリーを適切に廃棄またはリサイクルすることをお勧めします。お客様のご支援により、当社は電気電子機器を製造するために必要な天然資源の量を減らし、「耐用年数の過ぎた」製品の廃棄のための埋め立てごみ処理地の使用を最小限に抑え、潜在的な有害物質を環境に解放せず適切に廃棄することで、生活の質の向上に貢献いたします。



連絡先

GIGA-BYTE TECHNOLOGY CO., LTD.

アドレス: No.6, Bao Chiang Road, Hsin-Tien Dist., New Taipei City 231, Taiwan

TEL: +886-2-8912-4000、ファックス: +886-2-8912-4005

技術および非技術。サポート(販売/マーケティング): <http://ggts.gigabyte.com.tw>

WEBアドレス(英語): <http://www.gigabyte.com>

WEBアドレス(中国語): <http://www.gigabyte.tw>

GIGABYTE Webサイトにアクセスし、Webサイトの右上にある言語リストで言語を選択することができます。

• GIGABYTEグローバルサービスシステム

GIGABYTE **GTS** Global Technical Service

Welcome to GIGABYTE Service system. If you are a GIGABYTE Passport member, please login with your membership E-Mail address and password. Otherwise, you can simply enter E-Mail address to login.

✉ Your Email:

Your Password: [Forgot password](#)

English 繁體中文 Deutsch 簡體中文
Français Polski Español

技術的または技術的でない(販売/マーケティング) 質問を送信するには:

<http://ggts.gigabyte.com.tw>

にアクセスし、言語を選択してシステムに入ってください。